

政務活動費活動実績報告書

令和 6 年 10 月 29 日

橋本 正敏

件名	全国市議会議長会研究フォーラム
使途	1 調査研究費 ② 研修費 5 要請・陳情活動費
金額	120,341円
期日	令和 6 年 10 月 9 日（水）～令和 6 年 10 月 11 日（金）
場所	1、トーサイクラシックホール岩手（岩手県民会館）
目的	1、パネルディスカッション「地方議会の課題と主権者教育」 2、課題討議「主権者教育の取り組み報告」 3、視察「持続・循環型農業と地域の賑わい創出事例（雫石町）」
参加者	全国市議会議長、議員。2400 名。
概要	1、パネルディスカッション「地方議会の課題と主権者教育」 コーディネーター：井柳美紀 パネリスト：土山希美枝、越智大貴、渡辺嘉久、遠藤政幸 ・地方議会の課題には、投票率の低下、無投票当選の増加、議員の性別や年齢構成の偏りなどがある。 ・議会に対する関心を高め、理解を深めるため主権者教育と称し、高校生を対象に出前講座や模擬議会など開催されているが、やり方を検証する必要があるのではないかと。 ・行政、議会、教育現場の綿密な話し合いがまず必要。若者に対する知識の押し付けではなく、一緒に課題を解決するための方法を考えることが大事ではないかと。 2、課題討議「主権者教育の取り組み報告」 コーディネーター：河村和徳 事例報告者：白鳥敏明、諸岡覚、服部香代 ・伊那市議会では、「魅力ある議会づくり検討会」を設置して、開かれた議会を目指している。高校生の議会傍聴、意見交換会等を企画した中で、参加した高校生による請願を議会に提出した。また通学路の街頭増設の要望が出され、議員と現場を視察、執行部に改善要望の提出を行うなどの事例もあった。 ・四日市市議会では、「ワイ！ワイ！GIKAI」という出前型交換会を開催。常任委員会ごと開催。議員と生徒のディスカッションでは、グループごとに課題を話し合った。学校からの申し出による模擬選挙を行ったり、高校生による議会を行ったりした。 ・山鹿市議会では、小学校に出向き「市議会について」、「議員の仕事を理解する」、「選挙に意義や投票の大切さ」などを勉強し、市選管から借りた投票箱を使って模擬投票を行った。

	3、視察「持続・循環型農業と地域の賑わい創出事例（雫石町）」 ①小岩井農場 ・1888（明治21）年、鉄道庁長官の井上勝が盛岡を訪れ、開墾を決意。日本鉄道会社副社長の小野義真、三菱社社長の岩崎彌太郎に協力を依頼した。三人の名字から一字ずつ取り、「小岩井」と名付けられた。 ・1899（明治32）年、経営を継いだ三菱合資会社社長岩崎久彌は、欧州から優良家畜を輸入して系統繁殖を行った。また、火山灰土の不毛地に防風林を植え、牧草地に暗渠排水を施し、石灰をまき土壌改良をし、みどりの耕地に生まれ変わらせた。 ・現在、3,000haの中で250人が従事し、2,600頭の牛が放牧されている。 明治末期から昭和初期に建設された「小岩井農場施設」は、国指定重要文化財に指定され今でも使用されている。搾乳機については、最新のものであり中でも鶴ヶ台牛舎の搾乳機は一度に52頭の牛のお乳を搾乳できる。 ・バイオマス発電・たい肥化プラントでは、家畜の排せつ物・食物残さなどを処理し、メタンガスを利用した発電を行い、たい肥や液肥は畑にまき牧草やトウモロコシの育成に使用している。 ②道の駅 雫石あねっこ ・道の駅に隣接して日帰り温泉施設や日本ハーブ園、オートキャンプ場などがあり、旅行雑誌の2021年道の駅満足度調査で全国2位に選ばれるなど地域の賑わい創出の場となっている。 ・年間50万人の利用客があり、昨年3月にリニューアルした物産館では、新鮮野菜の直売所や、地産地消のレストランが併設されている。
所感	1、主権者教育の新たな展開 ・戦後、若者の激しい闘争ともいえる政治参画があった時代から、現在は議員のなり手不足、議会への不信など政治的関心の低下が著しい。今日、少しでも政治に目を向けてもらえるように、各方面で様々な取り組みがされるようになった。 議会では子ども議会を開催したり、高校生と対話して提言をいただいたり、模擬選挙を開催したりと工夫を凝らした「主権者教育」が展開されている。 そもそも私たち議会が「教育」できるであろうか。単に若く年下の人たちに自分たちの知識を押し付けているだけではないか、若い世代の考えを聞き、議員なりの評価をしているだけではないか。本来、教育はそれぞれの個性や思いを引き出して共有し、ともに考えより良き未来を作り出すことではないか。教育は学校の先生と共にそれなりのカリキュラムを組み、時間をかけて行わなければ単なる行事で終わってしまうのではないか。 私たちの議会では、11月に「市民と議会の意見交換会」を予定している。各地域に出向き、地域の課題、問題、要望など様々な意見を直接聞き、議会で共有し行政に提言、反映させていることは自負してよい。しかしながら、参加される方に偏りがあり、議会と行政、議員と行政区長の役割を混同している方がおられたり結果報告が行政区長までしかされず、参加された方や市民への共有がなされているかも微妙である。 社会や政治に参加する経験や地域への愛着を感じる機会の不足、市民と自治体、議会の間にある隔たりを少しでも解消する処方箋として議会、議員ができることは常に市民と寄り添い身近な存在としてあるようにし、地域の課題、問題を少しでも解決できるように日々研鑽を重ねていかねばならない。

・議会ができる「主権者教育」とは。今、特に若い世代が社会や政治に関心を持ってもらうため議会ができることは、まず高校生、大学生を対象とした対話の機会を作ることではないか。はじめに①学校、教育委員会と議会が話し合い、対話の場を設けることが大切である。そして、②若い世代に将来どんな国、地域であってほしいのか、未来像の提案・提言をしてもらい。次に③その未来を達成するためにはどうしたらよいのか対応を意見交換する。④すぐに行政に提言できるもの、さらに研究が必要なものなど様々な結論が出るが、若い市民と議会が議論し、政策に反映することができるといふ体験ができれば、若い世代が政治への関心を持ってくれるのではないだろうか。議会は、若い市民の声を受け止め、政策に生かす責任がある。若い世代と意見交換する場を積極的に作っていくべきではないだろうか。

2、小岩井農場

・明治から昭和初期に建てられた施設を今もなお大切に使用されている。しかし、中の施設は最新のもので、製造される製品は最高品質である。この考え方は、八女市にもある。伝統的建造物が立ち並ぶ中に、若い世代の商店が立ち始めている。古い中にも時代に合ったものが融合しなければ、発展はしない。

3、道の駅 雫石あねっこ

・道の駅満足度全国2位に選ばれるほど利用客から親しまれているところである。温泉やキャンプ場があり、一年を通して飽きないところである。しかし、直売所の売り場はそれほど広くなく、販売額も4億ほどとそれほど多くはない。立花町にも道の駅があるが、こちらは地元の農産物直売所として定評がある。それぞれに特徴があり、それを伸ばしていくことが大切である。